

日本東洋美術史の資料学的研究^(シ02)

研究組織 小野真由美、江村知子、二神葉子、橘川英規、安永拓世、小山田智寛、米沢玲、吉田暁子、田代裕一朗、城野誠治、黒崎夏央、大谷優紀(以上、文化財情報資料部)、塩谷純(上席研究員)、小林公治(特任研究員)、津田徹英(客員研究員)

目的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査及び研究を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成果

1. 研究基盤となる資料整備

美術史研究のためのコンテンツ作成として、16世紀～17世紀の公家日記をはじめとする古記録から、美術関連事項を抄出し、順次テキストデータとして入力した。入力データ件数は716件。さらに関連作例の調査を下記のとおり行った。

- 2022(令和4)年7月6日 公益財団法人 永青文庫所蔵「秋夜長物語絵巻」の調査
- 2022(令和4)年11月4日 東京国立博物館所蔵「狭衣物語絵巻」の調査
- 2022(令和4)年12月21日 根津美術館所蔵「酒吞童子絵巻」デジタル画像の特別閲覧

2. 研究交流の推進

ア) 日本美術に関する外部研究者を交えた研究会を開催し、研究交流を行った(所内の研究者による発表については「発表」の項を参照)。

- 2022(令和4)年5月30日 原浩史(慶應義塾志木高等学校)「神護寺薬師如来立像の造立意図と八幡神」令和4年度第2回文化財情報資料部研究会

イ) 創刊90年を迎えた研究誌『美術研究』の海外編集委員である洪善杓氏・石守謙氏と面談し、更なる学術交流について協議した(於: ソウル 2022(令和4)年10月19日・於: 台北 2022(令和4)年11月10日)。

ウ) 同誌に下記のとおり国内外の研究成果を掲載した。

- 阿部美香「儀礼本尊としての六道絵—六道釈から読み解く聖衆来迎寺本六道絵—」『美術研究』437 22.8
- 山本聡美「聖衆来迎寺本「六道絵」と如法経供養の儀礼空間—閻魔堂建築から「閻魔王庁幅」への中世的展開—」『美術研究』438 23.2
- 楊泓(市元壘訳)「穹廬から殿堂へ—雲岡石窟における空間構造の変遷と諸問題—」『美術研究』438 23.2

3. 東洋画史画論のデジタル化

東アジア美術研究における基盤的資料の画史・画論のなかから、王世貞・詹景鳳撰『王氏画苑』(萬曆18年刊)

の調査を行い、中川文庫本のデジタル化と電子図書の公開を行った(2月13日公開)。

- 2022(令和4)年4月1日 東京文化財研究所所蔵(中川文庫)『王氏画苑』の調査
- 2022(令和4)年5月10日、6月3日 東京大学東洋文化研究所所蔵『王氏画苑』の熟覧
- 2022(令和4)年6月10日 東京国立博物館所蔵『王氏画苑』の熟覧

論文

- 小野真由美:「狩野探幽筆 探幽縮図(梅竹菓子巻)」『MUSEUM』702 pp.21-68 23.2
- 大谷優紀:「早稲田大学會津八一記念博物館所蔵「べしみ」面に関する一考察」『美術研究』439 pp.1-18 23.3

発表

- 小野真由美:「『兼見卿記』にみる絵師・扇屋宗玖について」令和4年度第1回文化財情報資料部研究会 22.4.15
 - 小林公治:「螺鈿の位相—理智院蔵秀吉像厨子から見る高台寺蒔絵と南蛮漆器の関係—」令和4年度第4回文化財情報資料部研究会 22.7.25
 - 江村知子:「遊楽図のまなざし—徳川美術館蔵・相応寺屏風を中心に」第56回オープンレクチャー 22.11.8
- ほか2件



王世貞・詹景鳳撰『王氏画苑』のウェブ公開